

2学期終業式あいさつ

皆さんおはようございます。皆さんの前で話しかけることをうれしく思います。新型コロナウイルス感染症は、日本では感染者数が激減してきましたが、世界的にみると、新たな変異株が感染拡大しており、日本も油断できない状況です。しばらくは、今まで通りの感染症対策が必要となりますが、これからは、ウィズコロナで、さまざまな教育活動を展開していく必要があります。

その実践として2学期に実施した文化祭、体育祭、邇摩高フェアでは、入場制限や感染症対策をとりながら、皆さんがアイデアを出しあい協力して、工夫しながら本当によく取り組んでくれたと感心しています。

部活動等の大会でも皆さんのいろいろな分野での活躍が目立ちました。弓道部女子団体は、まさに今茨城県で行われている全国選手権大会に出かけているところです。悔いの無い試合をしてくれることを祈っています。また、来年度東京で行われる全国総文祭には、俳句部門、書道部門での出場も決まっています。本校の生徒が全国を舞台に活躍できることは本当にうれしいことです。

12月1日に発表された流行語大賞をもとに今年を振り返ってみると、ノミネートされた30語の内「副反応」「自宅療養」「黙食／マスク会食」そして、「13歳、真夏の大冒険」「ゴン攻め／ビッタビタ」「ピクトグラム」など約半数が新型コロナとオリンピック関連で占めました。そこからわかるように、今年には新型コロナと東京オリンピックで終始した1年だったと思います。

そんな中、流行語大賞となったのは、ロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手の「リアル二刀流／ショータイム」でした。大谷選手は、打ってはホームラン46本、投げては9勝の実力で、アメリカンリーグMVPの受賞を始め数多くのタイトルを獲得する大活躍でした。

大谷選手の言動で改めてすごいなと感じたことがありました。それは、MVPの受賞後の会見で、インタビュアーが「かねて語っていた『一番の選手になりたい』という目標は、世界一のリーグでMVPを受賞したことで達成したことにはならないですか。」という問いに対して、大谷選手が「なっていないですね。自分でそう思う日は、おそらく来ないと思います。アバウトというか、そういう目標ですけど、ゴールがない分、常に頑張れるんじゃないかなと思うので。まあ確実にステップアップはしたと思っていますし、今回の賞はその一つだと思います。今後のモチベーションの一つになりました。」と答えたことです。皆さんこの発言をどう思いますか。

もう一つ野球に関連しての話ですが、今年20年ぶりの日本一に輝いたヤクルトスワローズを率いた高津臣吾監督についてです。高津監督は、プラス思考で物事を捉え、日に日にたくましさを増す選手と喜怒哀楽を共有しながら、その背中を「絶対、大丈夫」と支え続けました。そして「絶対、大丈夫」という言葉は、いつしかチームの合い言葉となり、監督の前を向き続ける姿が、昨年まで2年連続で最下位に沈んでいたチームを変えていったそうです。

人は誰しも順風満帆な時ばかりではありません。むしろうまくいかなかったり、悩んだりすることの方が多いかもしれません。そんなときこそ、「もうだめだ」ではなく「だったらこうしてみよう」とプラス思考で考えれば、解決できることも多いと思います。そして、その願いが叶っても、そこで満足するのではなく、さらなる目標を持ち続け、ステップアップし続けていければすてきな人生を送れるような気がします。

皆さん、邇摩高校での3年間、いろいろな目標に向かって、いろいろなことにチャレンジし続けてください。経験は、自信に繋がります。自信はステップアップにも繋がります。また夢を持つことは大切です。夢に向かって頑張る努力ができるからです。努力は最大の力だと私は思います。そして、自分に「絶対、大丈夫」と言い聞かせてください。邇摩高校の生徒同士がお互いに熱く切磋琢磨をしながら頑張り、共に成長しあえる学校でありたいと願っています。

明日から冬休みです。年度途中ではありますが、年をまたぐ休みとなります。新しい年をどんな年にしたいのかじっくり考えてみてください。また、家族へ日頃の感謝の気持ちを伝え、家の手伝いをしてください。そして、令和4年1月11日には元気に揃って新年を、新学期を迎えましょう。